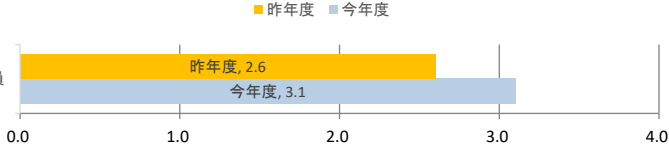
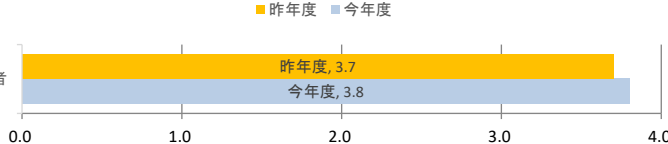
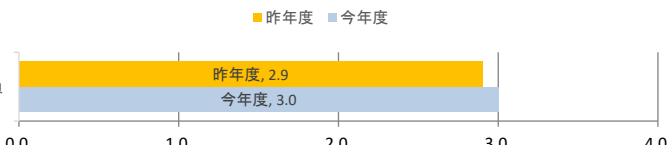
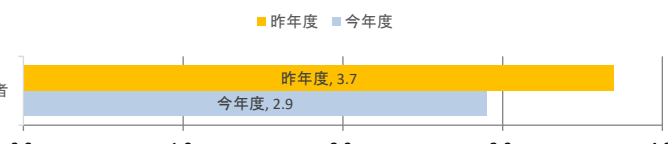
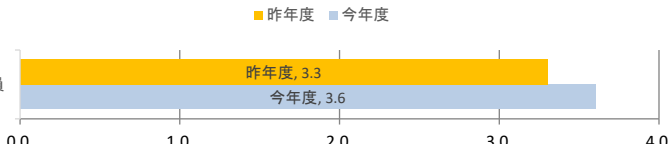
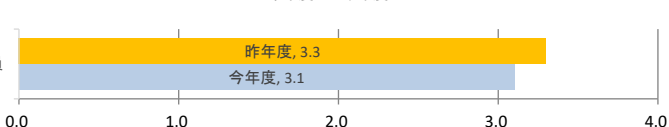
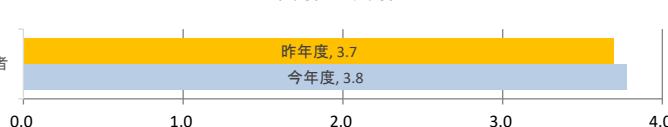
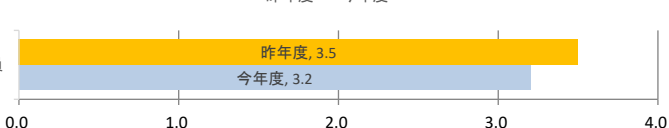


学校評価（教職員による自己評価と保護者の評価の集計） 令和2年度米沢養護学校長井校

評価基準 4 良い 3 ほぼ良い 2 やや改善 1 要改善 で教職員（18名）保護者（16名）で評価しました。
結果は、評価基準を得点化して平均値で表しています。最高値は4点です。

教職員の評価結果に対しての考察 ○結果に対しての今後の対応		
① 教職員： 児童生徒を真ん中に置き、人格と主体性を尊重した教育を推進していると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 3.4 今年度, 2.9	保護者： 長井校は、子どもを真ん中に置いた教育を推進していると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 3.8 今年度, 3.9	考察) 児童生徒の行動を理解することが、人格を尊重することにつながる。そのことも踏まえて今年度、児童生徒の障がい特性と実態を捉え、学習に反映していくに取り組んでいる。結果、行動の理解の仕方や学習内容、指導形態、学習グループなど、まだまだ工夫すべき点があるということが分かった。 ○継続して児童生徒の障がい特性と実態を把握。把握した結果から、学習課題や効果的な指導支援の仕方を整理し、より児童生徒を尊重し、自分から学習に取り組むことができるようにしていく。
② 教職員： 一人一人の実態把握を確実にを行い個別的教育支援計画・指導計画を充実させ、PDCAサイクルを積極的に回して更なる指導・支援の改善に取り組んでいると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 2.9 今年度, 3.2	保護者： 一年間の支援方針をもとに、一人一人に応じた支援が行われていると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 3.8 今年度, 3.8	考察) 日々の学習を記録する授業記録簿記入の時間を毎日設定。記録をまとめながら、評価と次時の計画、実践を繰り返す流れが定着した。 ○継続して、授業記録簿記入のための時間を設定。今後は、より効率的に日々の記録を個別の指導計画（通知表）に反映させていく流れを整理していく。
③ 教職員： 教職員がそれぞれの専門性を生かし、児童生徒に必要な資質・能力を協働して育成していると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 3.1 今年度, 3.4	保護者： 学級担任を中心として、組織的に学級経営がなされていると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 3.8 今年度, 3.7	考察) 今年度より、学部ごとに、学年学級の枠を取り除き、課題別に学習グループを編成し小集団での学習を毎日行っている。また、可能な限り個々の教員の専門性を活かし学習を担当するようにしたこと、担任以外の教員が児童生徒にかかわる場面が増えた。 ○個々の教員がもつ専門性を教員間で共有できるように、校内での研修会や情報交換会を行う。また、複数の教員で児童生徒の学習課題や学習内容を設定し実施する。
④ 教職員： 学びの連続性を意識した教育課程を編成し、指導・支援に当たっていると思いますか。(教職員のみ) ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 2.8 今年度, 3.2		考察) 今年度は、コロナの影響で学級単位での学習が多くなり、年度途中で単元計画の見直しを行った。その結果、児童生徒に応じたつながりのある計画のもと指導支援ができた。 ○今後、新しい学習指導要領の実施に伴い、教科学習の内容を合わせた指導において整理し行っていくことがより必要になる。そのため、それぞれの教科の学習内容について、児童生徒の実態と照らし合わせながら段階的にとらえ、学習内容の系統性を踏まえて年間単元計画を立てていく。
⑤ 教職員： 社会に開かれた教育課程を追求し、児童生徒や保護者、地域、関係機関から信頼される学校づくりをしていると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 3.1 今年度, 3.3	保護者： 児童生徒や保護者、地域、関係機関から信頼される学校づくりをしていると思いますか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 昨年度, 3.7 今年度, 3.8	考察) 今年度より、毎月発行の「学校だより」を放課後デイサービスや福祉事業所等の関係機関に配布し、長井校の取り組みを知ってもらうようにした。また、学級だよりをカラーで印刷し保護者に配布することで、児童生徒の学習活動や学習で作った作品、使った教材教具を明確に知ってもらうようにした。 ○学校だよりの配布、学級だよりのカラー印刷は今後も継続。地域活動については、今年度実施した清掃ボランティア活動等も踏まえ、何ができるか検討。

⑥	教職員： 自立と社会参加に向けたキャリア教育を推進していると思いますか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 2.6 今年度, 3.1	保護者： 将来の社会参加と自立に向けて、お子さんに合った支援がなされていると思いますか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.7 今年度, 3.8	考察) 今年度より、学習活動に将来的な展望を見据えた内容を取り入れることができるように、長井校版キャリア教育システム表を作成し活用した。 ○次年度の年間指導計画を考える際、キャリア教育システム表も活用しながら、一人一人の児童生徒の将来的な展望のもと、今すべきことを整理し、年間の学習単元の配列を行っていく。
⑦	教職員： 心と身体の教育、情報教育は適切に進められていると思いますか。(教職員のみ)  ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 2.9 今年度, 3.0		考察) 心の学習は、道徳の学習を、学校生活全体で行った。また、毎月の身体測定後、養護教諭と栄養士が、身体のことや食事に関する学習を行った。情報教育は、児童生徒の人数分以上のタブレットPCを整備、徐々に日常の学習場面で使用している。しかし、いまだ、児童生徒が実際に使用しての学習は少ない。○心と身体の教育について、長井校の児童生徒に合わせた学習全体計画を現在作成している。情報教育については、教員が積極的に日常の学習場面にICT機器を使用し、使用例を増やしていく。
⑧	教職員： 豊田小等との連携と交流及び共同学習は充実していると思いますか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.0 今年度, 2.6	保護者： 豊田小等との連携、交流及び共同学習（居住地校交流）が充実するよう取り組んでいると思いますか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.7 今年度, 2.9	考察) コロナ禍のため、豊田小学校はじめ他校の児童生徒との直接交流はほとんどできなかった。代りに、手紙や絵などの間接交流を行ったが、十分ではなかった。 ○今後も、直接の交流は難しい。豊田小との交流や居住地校交流については、手紙やビデオレター、インターネットを使用した間接的な交流をより一層推進していく。
⑨	教職員： 西置賜地域の特別支援教育の中核として、センター的機能が充実していると思いますか。(教職員のみ)  ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.3 今年度, 3.6		考察) コロナ禍ではあったが、地域の幼稚園や保育園、小学校等への巡回支援にチームで取り組んだ。学校見学や就学相談においては、担当者がそれぞれ役割をはたすことで、効率よく行うことができた。○持ち込まれる相談内容が学習支援から福祉的な内容まで多岐にわたる。事前に相談内容をコーディネーターを中心にチームで検討する時間を設けること、可能な限り校内での研修を行い、個々の相談担当教員のスキルを向上させていくことを今後も継続していく。校外の研修も活用、研修後の伝達講習も徹底していく。
⑩	教職員： 分かる授業、できる授業に取り組んできましたか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.3 今年度, 3.1	保護者： 分かる授業、できる授業に取り組んできましたが、いかがでしたか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.7 今年度, 3.8	考察) 児童生徒一人一人の課題に着目するようになった一方で、その対応については、まだまだ教員個人に任せているところが大きい。特に評価については、評価の視点が教員間で統一されていない場面が多いため、分かったか、できたかの捉えがまちまちである。○個別の学習や小集団での学習を実施する際、学習目標や方法について、学部主任をリーダーとして、学部単位で組織として検討共有して対応する。
⑪	教職員： 発達段階や年齢に応じた支援を心がけてきましたか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.5 今年度, 3.2	保護者： 発達段階や年齢に応じた支援を心がけてきましたが、いかがでしたか。  ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.6 今年度, 3.9	考察) 全教職員が、児童生徒との距離や接触の仕方、呼び掛け方について、性別や社会生活年齢に基づいて行うことを心掛けているが、中学部の排せつや着替え指導については、なかなか同性支援ができない状況で ○学校として、児童生徒の性別と教員の性別とのバランスが取れていないため、必ずしも同性による支援にならないときがある。しかし、可能な限り同性支援を心掛けるために、学部を超え教員間で協働することを徹底していく。

12	教職員： 児童生徒のサインや意思表示を大切にしてくれましたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.5 今年度, 3.2	保護者： 児童生徒のサインや意思表示を大切にしてくれましたが、いかがでしたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.7 今年度, 3.8	考察) 児童生徒の言葉だけでなく身振りや表情などに対して、即時対応を心掛けているが、児童生徒が何を思っていたか発信をしているのか、その意味を十分把握できない状況が増えている。また、発信の仕方が様々であり、それに気付かないときもある。 ○個々の児童生徒の発信の仕方、その発信に対しての読み取りや対応について、日々の児童生徒の情報交換時に取り上げ、学部内で共有していく。学校全体として共有すべきことは、主任会を通して行っていく。
13	教職員： 「えがお（個別の指導計画）」は分かりやすい内容を目指しましたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 2.9 今年度, 3.2	保護者： 「えがお（個別の指導計画）」は分かりやすい内容でしたか。 ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.7 今年度, 3.8	考察) 保護者だけでなく教員間でも分かるように、事前に表記の仕方を例示し統一した。また、評価前後、小学部は下学年、上学年グループ、中学部は全体で複数の教員の目で内容を検討確認するようにした。 ○複数の目の検討確認を今後も継続していく。また、「分かりやすい内容」とは、「目標」「手立て」「評価」の3点を、しっかり整合性をもってまとめるということを全員が共通認識していく。
14	教職員： 医療や福祉関係機関との連携を十分に図ってきましたか。（教職員のみ） ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.2 今年度, 3.1		考察) 今年度は、例年行ってきた福祉関係機関とのケース会議や情報交換会、施設訪問など、十分行うことができなかった。一方、医療については、学校保健委員会主催の「性教育」に関する講演会の実施、学校医の診察、学校訪問など例年通り実施した。 ○福祉関係機関へ訪問しての情報交換やケース会議の実施は今後も難しい。そのため、電話や紙面を用いた情報共有のための方法を検討し取り組んでいく。
15	教職員： 全職員が学部経営・学校経営に積極的に参画してきましたか。（教職員のみ） ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.0 今年度, 3.2		考察) 可能な限り、一人一人の教員の意見を収集し取り入れていくことを大切にしている。学部会後、主任会を実施。各学部会で話題になったことを学部主任から報告。意見に対して、実行の時期も含めて学校として回答している。学部内でも同様に、主任を中心に対応している。 ○今後も、継続して取り組んでいく。
16	教職員： 専門性の向上を目指して研究・研修等に取り組んできましたか。（教職員のみ） ■ 昨年度 ■ 今年度 教職員 昨年度, 3.3 今年度, 3.4		考察) 今年度は、一人一授業研究会を行い、研究を進めてきた。全員が一回は授業者となって授業を行うことで児童生徒の実態把握の仕方や観点別評価について研修を深めることができた。一方、Zoomによる外部研修も大いに活用できた。 ○専門性を向上させるための一つの方法として、伝達講習がある。Zoomで研修したことや外部の研修内容を、講師となり他者に伝えることは良いことだが、なかなか講習のための時間を確保できなかった。今後は、この機会を持てるように調整していく。
17	保護者： お子さんは、学校に登校するのを楽しみにしていますか。（保護者のみ） ■ 昨年度 ■ 今年度 保護者 昨年度, 3.4 今年度, 4.0		

学校評価を受け、今後意識的に取り組んでいくこと

- 「主体性」という言葉を単なるスローガンにするのではなく、実際に児童生徒一人一人の主体性について話し合い共有することで、一人一人の児童生徒が「わかった」「できた」という達成感や次時への意欲を、日々の学習で持てるようにしていく。
- 一人一人の児童生徒の課題を明らかにし、学年学級、担任の枠に縛られない個別学習の時間を設定し取り組んでいく。そのために、教師間の情報共有、きめの細かい話し合いを大事にしていく。
- 児童生徒の発達段階、年齢に応じた学習内容、指導の仕方を常に心掛けていく。また、日常生活において、年齢に応じた伝え方（口調）、かかわり方、お互いの距離、身だしなみなど、常に意識していく。
- 児童生徒のサイン（言葉だけでなく表情や身振りなど）の意味を、学校と家庭ですりあわせ、理解することで、共通の対応ができるようにしていく。
- タブレットPCやノートPCなどのICT機器を、学習場面にかかわらず、日常場面でも積極的に使用していくようにしていく。
- コロナウイルス感染症対策の影響で、今年度ほとんど実施することができなかった交流および共同学習について、今後の状況もみながら対応していく。手紙のやり取りや映像を使った間接的な交流活動は継続していく。また、外部の方を講師に招いての活動などは、内容や規模を縮小して可能な限り実施していく。